

名取市東日本大震災
復興記録誌



名取市
NATORI CITY

名取市東日本大震災 復興記録誌

2011～2025



名取市

2011 NATORI 2025
心からの笑顔を求めて、新たな未来へ



名取市東日本大震災
復興記録誌

2011→2025

復興記録誌

名取市東日本大震災



N A T O R I

心 か ら の 笑 顔 を 求 め て 、
新 た な 未 来 へ

ごあいさつ

名取市長 **山田 司郎**



平成23年3月11日に発生した東日本大震災から15年の月日が経過しました。未曾有の地震と大津波により、本市では923名の方の尊い命が失われました。さらに、40名の方は今もなお行方が分かっておらず、また、42名の方が震災による関連死と認定されました。ここに改めて、犠牲になられた皆さまのご冥福を心よりお祈り申し上げるとともに、ご遺族の皆さまにお悔やみを申し上げます。

年月の経過により、震災の記憶の風化が懸念されるなか、本市では、震災の記憶や教訓の風化防止に関する考え方や取り組みの方向性を示す「東日本大震災の記憶・教訓を未来へつなぐ伝承基本方針」を令和6年10月に策定いたしました。本方針に基づく取り組みの一環として、このたび、震災からの復興過程における記憶や経験、教訓を含め、復興の歩みをまとめた震災復興記録誌の作成に取り組んできたところであります。

名取市は、震災から約半年後の平成23年10月に「名取市震災復興計画」を策定し、甚大な被害を受けた沿岸部を中心に復旧・復興事業に全力で取り組んでまいりました。震災からしばらくの間は多くの混乱に見舞われ、思うように事業が進められなかった時期もありましたが、市では、このような状況を打開するため、平成28年秋以降、それまで担当ごとに進行管理を行っていた事業のうち復興の核となる20の事業を抽出、「復興達成宣言スケジュール表」により全市的な進行管理体制を強化しつつ、平成31（令和元）年5月の「閑上地区まちびらき」や平成32（令和2）年3月の「復興達成宣言」などを必達目標に設定することで、全ての職員が一丸となり復興に全力で取り組むための指針とし、復興の加速化に向けた取り組みを進めてまいりました。

その後、震災で住まいを失った方々の新たな生活の場となる災害公営住宅の整備や、将来の大規模災害に備え、海岸堤防と共に津波への多重防御の役割を果たす第2次防御ラインの開通など、数々の復興事業が完了し、震災復興計画の最終年度となる令和2年3月には、目標としていた「復興達成宣言」を実現することができました。ここに至ることができたのは、仮設住宅等の厳しい環境で過ごされながらも、長きにわたり名取市の取り組みにご協力くださった市民の皆さま、全国はもとより海外からも多大なるご支援、ご協力をいただいた多くの皆さまのおかげにほかならないと感じております。改めて、この誌面をお借りして深く感謝を申し上げます。

名取市におきましては、震災復興に携わった職員の多くが退職し、令和8年4月には、震災後に採用された職員の数が全体の半数を超えることになる見込みです。震災による被害の記憶と、その後の復興過程において学んだ教訓は、東日本大震災で甚大な被害を受けた名取市の職員として、絶対に備えておかねばならないものであります。今後、名取市が経験した震災の記憶と教訓を多くの方々へ伝承し、将来起こりうる災害への対応や危機管理意識を醸成していくにあたり、この震災復興記録誌が一助となれば幸いです。

令和8年3月

名取市東日本大震災
復興記録誌

目次

ごあいさつ

名取市長 山田 司郎

【巻頭特集】誌上震災復興伝承館

①数字で知る被害概況	8
②写真で見る被災状況	10
③キーワードで綴る復興の歩み	16

第I部 名取市、震災復興の歩み

第1章 暮らし分野

第1節 暮らしと住宅の再建支援	
1 暮らし再建の相談と支援	28
2 恒久的な住宅への移行支援	48
第2節 心身のケアと未来を支える人づくり	
1 心と体のきめ細かなケア	62
2 学びと成長の環境整備と就学支援	68
3 地域への愛着を育てる教育と将来を担う人材の育成	74
第3節 コミュニティを支える地域力の醸成	
1 地域集会所の復旧	80
2 震災の教訓の蓄積と定着化	84
3 防災意識の向上と地域防災力の強化	100
4 復興に向けた協働のまちづくりの推進	108
5 新たな社会的課題にチャレンジするまちづくり活動の育成	114

第2章 産業分野

第1節 地域に根付いた産業の再生と強化	
1 農業再開への支援	124
2 農地の集約と持続的な農業経営体制づくり	132
3 閑上漁港の復旧と漁業・水産加工施設の再建支援	136
4 世界に通用する品質管理による漁業・水産加工業の集積促進	140
5 商工業・中小企業の事業展開への支援	146

第2節 時代を先取りする企業誘致と雇用の創出	
1 戦略的な企業誘致と産業振興支援	152
2 地域産業イノベーションの推進	164
第3節 なとりらしい風土を感じるブランドの確立と観光・交流の促進	
1 全国をターゲットにした地域ブランドと観光の充実	166
2 被災した地域資源の再生	172
3 自然や歴史遺産等を生かした観光・交流の促進	176
4 震災によって生まれた交流や追悼の思いを広げる取り組みの実施	196
5 仙台空港と閑上を結ぶ観光軸の形成	204
6 交流人口の拡大によるまちの賑わいづくり	208

第3章 まち分野

第1節 災害に強い都市空間の創造	
1 災害等廃棄物の処理と適正な活用	212
2 公共公益施設・都市基盤施設等の復旧	220
3 消防防災施設等の復旧・充実	244
4 まちを守る沿岸部の総合的な安全対策	252
5 防災性の高いまちづくりの推進	260
6 生命を守る避難・救援のネットワーク形成	266
7 災害に強いライフラインの構築	274
第2節 復興を支え、元気を育てる土地利用の推進	
1 閑上・下増田のまちの復興に向けた事業の推進	278
2 都市の持続的な活力を育てる土地利用の展開	308
第3節 魅力ある市街地の形成	
1 地区の復興を先導する公共施設の整備	316
2 日常生活の魅力を高める環境づくり	324
3 中心市街地活性化事業の推進	328
4 定住促進によるまちの賑わいづくり	338

付章 復興推進体制

1 行財政運営	342
2 議会運営	374

第II部 名取市、復興の原動力

【インタビュー】市民発の復興論	384
-----------------	-----

第III部 資料編

1 名取市復興の歩み[復興年表]	394
2 東日本大震災復興交付金事業／東日本大震災復興基金交付金事業	404

市民発の復興論

●『関上復興だより』から見る未来 一般社団法人ふらむ名取 代表理事 格井 直光 さん	385
●〈いのち〉を語りつぎ、伝える 津波復興祈念資料館 関上の記憶 代表 丹野 祐子 さん	386
●コミュニティ形成の難しさを実感 関上中央町内会・会長 長沼 俊幸 さん	387
●子どもを軸にコミュニティを形成 関上西町内会・会長 渡邊 成一 さん	387
●住民主導で実現した集団移転 美田園北町内会・前会長 高橋 学 さん	388
●防災安全の確保が地区の課題 小塚原南町内会・会長 小平 敏 さん	388
●みんなが集う場を増やし、絆を育む 小塚原北町内会・会長 引地 誠一 さん	389
●町内会の絆の強さが復興の鍵に 杉ヶ袋南町内会・元会長 佐藤 哲敏 さん	389
●土地への愛着心が絆の強さを生む 杉ヶ袋北町内会・元会長 森 忠 さん	390
●人口急増で変化する町内会運営 飯塚町内会・会長 武田 一弘 さん	390

名取市職員が語る復興の歩み

※肩書は当時のもの

●暮らしを支えた情報インフラ コミュニティFM「なとらじ」(臨時災害FM) 総務課 広報広聴係長 林 タケル	43
●仮設住宅の建設・入居からコミュニティ再生までを支援(被災者支援) 震災復興部 生活再建支援課 鈴木 智弥	44
●支援者を支援するデータを構築 自助・共助・公助を橋渡し(被災者支援) 震災復興部 生活再建支援課 中澤 真哉	44
●市民の生活再建を最優先に 行政事務ではなく被災者のサポートを(被災者支援) 震災復興部 生活再建支援課 小泉 敏	45
●安心の住まいをいち早く届けたいのに……工期の遅れに歯がゆい思い(災害公営住宅の整備) 震災復興部 復興まちづくり課長 郷内 秀稔	61
●状況に応じた個別訪問で被災地域の住民たちの心身をケア(被災者の健康支援) 保健センター保健師(神戸市応援職員) 橋本 愛子	67
●子どもたちが安心して過ごせる居場所をつくる(被災した児童・生徒への支援) 学校教育課 課長補佐 下山 常恵	72
●自分の命を守ることの大切さを伝え続けることが私の使命(関上小中学校の再建と防災教育) 関上中学校教務主任 八森 伸	73
●風化する被災時の記憶 市民の防災意識の維持が課題(防災対策) 防災安全課 防災係長 佐藤 浩	106
●防災・減災の取り組みには地域の声を生かすことが重要(防災対策) 防災安全課 防災係 森口 能光	106

●これからを見据え復旧・復興と農業の持続を(農業者への支援) 農林水産課 農林業振興係長 相澤 雅彦	131
●誠意をもって接することが事業採択と企業誘致の鍵(水産加工団地の整備) 農林水産課 課長補佐兼水産業振興係長 小松 義晴	144
●関上さいかい市場～被災者の皆さんが「再会」できる場であるために～(商業者への支援) 商工観光課 商工振興・雇用促進係長 菱沼 弘一	150
●赤貝やシラスのブランド化で関上の水産業を復興(漁業者・水産業者への支援) 農林水産課 水産業振興係長 阿部 のぞみ	170
●事業者も、それを支える行政も熱意を同じにすることが大事(かわまちづくり事業) 震災復興部 復興調整課 草野 学	192
●新たな魅力をまとい進化した 名取市サイクルスポーツセンター(サイクルスポーツセンター) 商工観光課 課長補佐 渡邊 英樹	193
●震災を後世に伝える道(みちのく潮風トレイル) クリーン対策課 環境保全係 西城 卓哉	194
●処理の効率化、事故防止のため最初に分別する一手間を(災害廃棄物処理) クリーン対策課 課長補佐 佐藤 恭	218
●被災者の心に密接に関わる返却事業 タイミングや対応に苦慮(思い出の品の引き渡し) 総務課 総務係長 小笠原 博志	219
●職員、団員の身の安全を第一に ソフトとハードの両面を整備(消防体制の見直し) 消防本部総務課企画管理係 塚原 裕彦	250
●現場の記録を残すことの重要性を実感(消防施設の復旧) 消防本部総務課企画管理係 西條 貴幸	250
●あらゆる物事を同時に進行させる復興事業の難しさを実感(第2次防御ライン整備) 震災復興部 復興まちづくり課 鈴木 達朗	259
●培ってきた経験や知識を次の災害復旧につなげる(下水道施設の復旧) 下水道課 建設係 古山 幸永	277
●意見集約でできず進まない整備事業 再建の遅れが悔やまれる(被災市街地復興土地区画整理事業) 震災復興部長 手嶋 日出彦	306
●判断力が求められる復興事業 職員の経験や知識が生きてくる(被災市街地復興土地区画整理事業) 震災復興部 復興区画整理課 遠藤 靖久	307
●日頃からの信頼関係の構築が円滑な事業進行につながる(被災市街地復興土地区画整理事業) 震災復興部 復興区画整理課 奈良 厚	307
●もっと早くできていれば…… 悔いが残る墓地公園整備(墓地公園整備) クリーン対策課 環境衛生係長 朽木 康裕	315
●再建場所を巡る立場の違い 合意形成の難しさで関上に対する愛着を改めて実感(関上小中学校整備) 庶務課(現 教育総務課)課長補佐 小平 英俊	320
●自らが使うものを自らが考える 住民のための公民館建設(関上公民館の復旧) 生涯学習課 課長補佐 佐々木 賢一	323
●“災害復旧事業の原則”を超えた住民のための施設づくり(関上公民館の復旧) 生涯学習課 公民館係長 境 幸代	323
●積極的に手を挙げることが国や県の手厚い支援につながる(名取駅前市街地再開発事業) 増田復興再開発推進室長 車塚 仁悦	336
●きっかけはボランティアの存在「市民とともに歩む図書館」づくり(図書館の再建) 図書館長 柴崎 悦子	337
●復旧・復興に大切なのは迅速さと財源の確保(震災復興計画の推進) 政策企画課 課長補佐 小畑 和弥	340

数字で知る 被害概況

平成 23 年 3 月 11 日、
人口約73,000名の名取市が震度6強の大地震に見舞われた。
この東日本大震災による名取市民の犠牲者は 900名を超え、
住宅の全壊は 2,801 棟にも上った。
これら被害のほとんどは
地震発生から約1時間後に押し寄せた
大津波によるものであった。
数字で振り返る 3.11 の記録。



赤線 津波の遡上範囲
青塗り 家屋の多くが流される被害を受けた範囲

日本地理学会災害対応本部津波被災マップ作成チーム 2011
2011 年 3 月 11 日東北地方太平洋沖地震に伴う津波被災マップ 2011 年完成版
http://www.ajg.or.jp/disaster/201103_Tohoku-eq.html

東日本大震災の概要

▶震源 三陸沖 北緯 38.1 度
東経 142.9 度
牡鹿半島東南東 130 km 付近

▶地震の規模 **M9.0** (マグニチュード)

▶名取市の震度 **6強**

津波の状況

▶浸水高・水位

下増田地区 浸水高 **12.3 m** ※仙台空港前面海岸

閑上地区 海岸砂丘付近 **10.6 m** (水位)
閑上漁港付近 **9.09 m** (浸水高)

▶浸水面積

名取市域の **28%** (約 27 km²)

沿岸部では家屋の全壊が多数を占め、閑上では海から 1 km 以内の木造住宅は、ほぼ流失。

▶津波の侵入

海岸から最大約 **5.5 km**

河川では海岸から約 7 km で津波が遡上。増田川では河口から約 7.3 km の増田西大橋まで軽自動車が流された。



人的被害

犠牲者 **965** 名 / 73,229 名 (関連死含む)

負傷者 **208** 名 / 73,229 名

沿岸の甚大被害地区では、 当時の人口の約 1 割に当たる 約 800 名が犠牲になった。	閑上地区	709 名 / 5,686 名	12.5 %
	小塚原地区	43 名 / 461 名	9.3 %
	下増田北釜地区	47 名 / 396 名	11.9 %

住宅被害

▶全壊 **2,801** 件 ▶大規模半壊 **219** 件 ▶半壊 **910** 件

(平成 24 年 3 月 5 日現在)

写真で見る 被災状況

平成 23 年 3 月 11 日、
突如として未曾有の災害に襲われた名取市。
東日本大震災による大津波で壊滅的な状況に陥り、
市内の至る所で甚大な被害が確認された。
その爪痕は、自然の脅威とともに
人々の胸に強く深く刻まれることとなった。
写真で振り返る 3.11 の記憶。



● 関上地区に押し寄せた津波【提供：海上保安庁】



● 大量の瓦礫が流れついた関上小学校



● 関上小学校教室



● 関上中学校教室



● 関上大橋から捉えた津波による黒い煙



● 関上公民館付近【提供：金矢泰弘】



● 関上1丁目付近【提供：金矢泰弘】



● 変わり果てた光景の中、屋上で救助を待つ人々【提供：小齋誠進】



● 瓦礫で埋め尽くされた関上中学校校庭
【提供：八森伸】



● 関上5丁目の液状化現象[提供: ㈱ささ圭]



● 地震で倒壊した関上地区の住宅[提供: ㈱ささ圭]



● 津波被害を受けた北釜集会所



● 市役所内部



● 仙台空港鉄道 杜せきのした駅
[提供: 仙台空港鉄道㈱]



● 土手の一部が崩壊した増田川堤防



● 飯野坂地区の道路被害の様子



● 下増田・仙台空港付近の道路の亀裂



● 震災前の関上地区の航空写真[提供: 一般社団法人東北地域づくり協会] (平成13年9月撮影)



● 震災直後の関上地区の航空写真[提供: 一般社団法人東北地域づくり協会] (平成23年3月撮影)

キーワードで綴る復興の歩み

平成23年10月に策定した復興計画のもと、
官民が一体となり懸命に復旧・復興に取り組んできた名取市。
令和2年3月30日には、住まいの再建やインフラの整備など基盤整備を伴う
復旧・復興事業が概ね完了し、復興を達成したことを宣言。
令和2年度を初年度とする第六次長期総合計画のもと、
「愛されるふるさと なとり」を共に創り、
未来へつなぐ次のステージへと進むこととなった。
キーワードで振り返る、名取市、復興の軌跡。

平成23(2011)年

震災直後の混乱のなか、ライフラインの復旧や住居の確保など、復興を目指し歩み始めた2011年。まちの今後の姿をどのようにしていくのかを模索し、多くの会議で議論が行われた。

2 KEY WORD 仮設住宅



避難所生活の早期解消を図るため、震災後間もなく、仮設住宅の建設が急ピッチで進められた(写真は、箱塚桜団地の建設状況)。

1 KEY WORD ゆりあげ港朝市



震災からわずか16日後の3月27日、「ゆりあげ港朝市」がイオンモールの駐車場を会場に臨時開催され、住民たちの再会や交流の場となった。

3 KEY WORD 入居者説明会



法務局庁舎で行った仮設住宅の入居者説明会。説明会の後、鍵の引き渡しが行われた。

4 KEY WORD 東日本大震災名取市合同慰霊祭



東日本大震災の発生から100日目。市文化会館で合同慰霊祭が開催され、多くの人が参列。犠牲となった故人を偲び、冥福を祈った。



6 KEY WORD

名取市新たな未来会議

市民や学識経験者が集まり、沿岸部の復興について、さまざまな立場・視点から議論が交わされた。

5 KEY WORD

震災復興 市民100人会議



市の復興計画策定のため、市民の意見を広く求め、未来への暮らしや絆の強化について議論を重ねた。

7 KEY WORD

まちづくり推進協議会



町内会や産業団体代表などが参加し、閑上地区のまちづくりの方針について話し合いが行われた。

平成24(2012)年

現地再建を基本とする閑上地区の復興について検討が重ねられた2012年。ほかにも、震災関連のさまざまな復興事業が動き出していった。

9 KEY WORD 希望の家



東日本大震災の復興支援の一環としてドイツの財団から寄贈された、市民の交流と安らぎの場としての活用を目的とした多目的ホール(©Shigeo Ogawa)。

8 KEY WORD 閑上さいかい市場



閑上地区の商工業者が、事業の「再開」と住民の「再会」を目的としたコミュニティの場としてオープンした仮設商店街。

平成25(2013)年

名取市沿岸部の復興が具体化した2013年。関上地区については、土地区画整理事業と防災集団移転促進事業の併用により整備が進められることが決まった。

10 KEY WORD メイプル館



カナダ連邦政府などの支援により、カナダ産木材が使用された「メイプル館」が、ゆりあげ港朝市にオープン。

13 KEY WORD 土地区画整理事業



津波で被災した関上地区で、現地再建によるまちづくりを行う、被災市街地復興土地区画整理事業が事業認可され、現地で起工式が行われた。

平成27(2015)年

美田園北の災害公営住宅への入居が開始された2015年。震災メモリアル公園計画の具体化と、まちづくり協議会による新たな地域づくり確立に向けた活動が本格化していった。

14 KEY WORD

美田園北まちびらき

災害公営住宅の入居開始に伴い、美田園北地区のぎざん公園で、まちびらきイベントが開催された。

平成26(2014)年

復興まちづくりの基盤整備が本格化した2014年。関上地区の災害公営住宅や防災集団移転団地の造成に向けた土地区画整理事業がスタートした。

11 KEY WORD 海岸堤防



関上地区・北釜地区から関上地区に至る約4.2kmの名取海岸堤防。震災後T.P.+7.2mの高さに統一され、復旧工事がなされた。

12 KEY WORD 東日本大震災慰霊碑



東日本大震災により犠牲となった人々を偲び、震災の記憶を後世に伝えていくための慰霊碑が建立され、除幕式が行われた。



平成28(2016)年

関上小中学校の造成工事が始まり、復興建設が加速した2016年。被災者の生活再建の要となる災害公営住宅への入居も進んだ。

16 KEY WORD

関上小中学校

関上地区に建設される小中一貫校「名取市立関上小中学校」の起工式が行われた。



平成29(2017)年

関上地区に完成した災害公営住宅(戸建・集合型)への入居が進んだ2017年。地域コミュニティの再生へ向けて、大きな進展が見られた。

18 KEY WORD

名取中央スマートインターチェンジ



仙台東部道路に新たなインターチェンジが開通。地域の産業経済への大きな波及効果が期待された。

21 KEY WORD

関上地区災害公営住宅(集合・1期)



15 KEY WORD 仙台空港



国の管理空港として全国で初めて、運営を完全に民間に委託する民営化を実施。新たなスタートを切った。

17 KEY WORD

高柳地区災害公営住宅(戸建)

高柳地区の、災害公営住宅50戸(戸建)が完成し、鍵の引き渡しが行われた。



19 KEY WORD

高柳地区災害公営住宅(集合)

高柳地区の、災害公営住宅50戸(集合)が完成し、鍵の引き渡しが行われた。

20 KEY WORD 関上シラス漁

関上地区でシラス漁が開始され、「北限のしらす」としてブランド化が進められた。



22 KEY WORD

東北・みやぎ復興マラソン

名取市と岩沼市、亶理町をコースとした「東北・みやぎ復興マラソン」が開催された。当日は1万人を超えるランナーが沿岸部を走った(写真は2018年に開催された第2回の様子)。





23 KEY WORD

皇太子同妃両殿下行啓

復興状況の視察のため、当時の皇太子同妃両殿下が関上地区を行啓。

24 KEY WORD

関上中央第一団地 (集合・2期)



関上地区の災害公営住宅40戸 (集合・2期) が完成し、鍵の引き渡しが行われた。

25 KEY WORD

関上西第一団地 (戸建・1期)



関上地区の災害公営住宅90戸 (戸建・1期) が完成し、鍵の引き渡しが行われた。

平成30(2018)年

関上小中学校が開校し、待望の教育復興の核が誕生した2018年。また、全ての災害公営住宅が完成し、住まいの再建が完了。「居住」と「教育」という生活基盤が整い、復興事業の重要な節目を迎えた。

26 KEY WORD

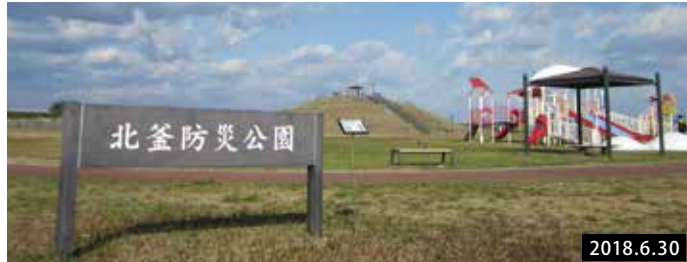
関上小中学校開校



震災で被災した旧関上小・中学校が、仮設校舎を経て小中一貫校として開校。関上地区の復興のシンボリックな存在となった。

27 KEY WORD

北釜防災公園



下増田地区の防災集団移転跡地に、避難場所としての機能を備えた「北釜防災公園」が完成。

28 KEY WORD

舟運事業



関上の漁港や広浦湾を舟で巡る、関上舟運事業の就航式が、ゆりあげ港朝市前で行われた。



29 KEY WORD

名取駅前再開発事業

図書館や増田公民館などを集約・再建した名取駅前再開発事業がグランドオープンを迎えた。

30 KEY WORD

新名取市図書館

名取駅前再開発事業に併せ、新たな名取市の文化を創る情報拠点として、新名取市図書館が整備された。

31 KEY WORD

関上地区災害公営住宅 (戸建・集合第3期)



関上地区の、災害公営住宅105戸 (集合・3期) と16戸 (戸建・3期) が完成し、鍵の引き渡しが行われた。これで、市の災害公営住宅がすべて完成した。

平成31・令和元(2019)年

復興事業が最終段階を迎えた2019年。公共施設や商業施設などが続々とオープンし、関上地区が「賑わいのあるまち」へと大きく転換していった。



32 KEY WORD

皇太子同妃 両殿下御歌碑

2017年、当時の皇太子同妃両殿下が行啓された際に詠まれた御歌が刻まれた御歌碑が慰霊碑前に建立された。

2019.3.29



34 KEY WORD

関上保育所

関上地区に住む子育て世代の受け皿となる施設として、関上保育所が開所式を迎えた。

2019.3.31

35 KEY WORD

消防署 関上出張所

県道塩釜亘理線沿い西側に移転のうえ、運用が再開された。



2019.4.1

37 KEY WORD かわまちてらす関上



2019.4.25

関上地区の復興の象徴の1つとして、名取川の堤防沿いに整備された商業・観光施設がグランドオープン。

38 KEY WORD

関上公民館・関上体育館



2019.5.18

地域の交流・学びの拠点として、新たなまちの中心で復活を果たした。建物の外観は、子どもたちの意見をもとに、海や川に近い関上をイメージした色が採用された。

39 KEY WORD

関上地区まちびらき



2019.5.26

「関上地区まちびらき」が行われ、新たなまちのスタートを切った。当日は関上地区でさまざまなイベントが行われ、多くの人で賑わいを見せた。

40 KEY WORD

お浜降り



2019.5.26

関上地区まちびらきに併せ、神事「お浜降り」が21年振りに復活した。

41 KEY WORD

震災メモリアル公園



2019.5

鎮魂と伝承の想いが込められた憩いの公園「震災メモリアル公園」が完成。

令和2(2020)年

復興の最終的な姿が確立された2020年。複合レジャー施設や大型商業施設の開業により、閉上地区は「住まい・教育・商業・交流・防災」など、あらゆるものが整った住みやすいまちとなった。

42 KEY WORD 閉上児童センター



閉上小中学校南側に閉上児童センターが開所した。保育所も含めて、集約し整備されたことで、子育てのしやすい環境が整えられた。

43 KEY WORD

震災復興伝承館



震災の記憶や教訓を伝承し、防災意識を醸成していく施設として、名取川堤防沿いに完成。震災前の街並みを再現したジオラマなどが展示されている。

44 KEY WORD 墓地公園



閉上南北線(第2次防御ライン)東側の高台に墓地公園が完成した。

45 KEY WORD イトーチェーンフーズガーデン ゆりあげ食彩館



住民念願の大型商業施設が県道塩釜亘理線沿いにオープン。(提供:株式会社伊藤チェーン)

46 KEY WORD 第2次防御ライン



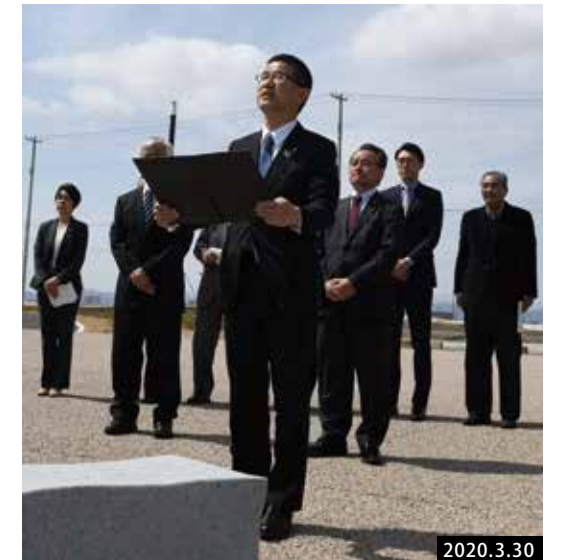
T.P.+5.0mの嵩上げによる津波への多重防御や、避難道路としての役割も有する、閉上地区から仙台空港までを結ぶ第2次防御ライン(閉上南北線、広浦北釜線)が全線で開通した。

47 KEY WORD サイクルスポーツセンター



温泉宿泊施設を併設したサイクルスポーツセンターが、震災前と同じ閉上宇東須賀地区で運営を再開した。

48 KEY WORD 名取市復興達成宣言



震災メモリアル公園で、山田市長により復興達成宣言が行われた。